



## 春・夏「甲子園」 センバツ史上初中止!!



「甲子園」と言えば、全国の高校球児たちの憧れの舞台です。日々練習を積み重ね、予選を勝ち抜いた各都道府県の代表が甲子園球場で熱戦を繰り広げます。高校野球には、春と夏があります。「開催する時期が違うだけ…?」と思ってしまうかもしれませんが、いろいろと違いがあるようです。

まず、「春の甲子園」の正式名称は「選抜高等学校野球大会」です。一般的に「センバツ」や「選抜甲子園」、「春の高校野球」と呼ばれ、主催は「毎日新聞社」と「日本高等学校野球連盟」です。そして、「夏の甲子園」の正式名称は「全国高等学校野球選手権大会」です。一般的に「選手権」や「夏の高校野球」と呼ばれ、主催は「朝日新聞社」と「日本高等学校野球連盟」です。

次に、出場校の選び方に違いがあります。「春の甲子園」は、各都道府県の高校野球連盟推薦校の中から、秋季地区大会の成績や、地域的なバランスを考慮して選ばれます。そのため、秋季地区大会で初戦敗退した学校でも選ばれる可能性があります。2001年から「21世紀枠」（学校や地域の特性などの困難を克服した学校や地域貢献し他校の模範となる学校）、また、2003年から「明治神宮大会枠」、さらに2013年から「東北絆枠」という枠が設けられています。

一方、「夏の甲子園」は、各地道府県で地方大会を勝ち抜いて優勝した学校が、その都道府県代表となります。つまり、過去の実績に関係なく「一発勝負」で選ばれています。また、各都道府県1校は必ず出場できることとなります。1978年以降、東京、北海道の代表が2校になり、1998年の第80回記念大会と2008年の第90回記念大会では、埼玉県、千葉県、神奈川県、愛知県、大阪府、兵庫県を加えた8都道府県が代表2校になっています。さらに、2018年の第100回記念大会では福岡県を加えた9都道府県が代表2校になり、合計56校で実施されました。

それ以外にも、試合の組み合わせは、「春の甲子園」は、最初に組み合わせ抽選が行われ、トーナメント形式で試合が行われ、「夏の甲子園」は、すべての試合で組み合わせ抽選が行われます。そのため、次の対戦相手がどの学校になるか予想できず、選手はもちろん観客もドキドキしてしまうようです。優勝旗については、「春の甲子園」は「紫紺（しこん）の優勝旗」で、「夏の甲子園」は「深紅（しんく）の優勝旗」といった違いもあるようです。

同じ甲子園でも、春と夏で違う部分がたくさんあります。何となく、夏の甲子園の方が盛り上がっているように感じますが、それは春と違って各都道府県から必ず1校は代表として出場しているからでしょうか？いずれにせよ、代表となった高校球児は甲子園で熱戦を繰り広げてくれます。そのひたむきな姿は、いつも私たちにたくさんの感動を与えてくれます。

♥ Happy Birthday 3/18..小林 命叶さん